

Japan Mobility Show 2025 の出品概要

スズキ株式会社は、2025年10月30日から11月9日まで、東京ビッグサイトで開催される Japan Mobility Show 2025（主催：一般社団法人 日本自動車工業会）に次の内容を出品します。

出展テーマは本年2月の新中期経営計画で発表したコーポレートスローガン「By Your Side」とし、前回の「世界中に、ワクワクの、アンサーを。」から「あなたに、ワクワクの、アンサーを。」というメッセージに進化させ、出展物ひとつひとつで By Your Side をご体感いただけるブース展示、演出とします。

ブース内では、軽乗用 BEV コンセプトモデル「Vision e-Sky」、二輪 BEV コンセプトモデル「e-VanVan」をはじめ、次世代四脚モビリティ「MOQBA（モクバ）2」、船外機などを展示し、総合モビリティメーカーとしての技術を集結することで、スズキが目指すお客様ひとりひとりの困りごとの解決に寄り添うインフラモビリティをご提案します。そのほか、電動モビリティベースユニット、CBG^{※1}事業などの取り組みもご紹介します。

また、軽トラック「スーパーキャリイ」の荷台を活用したスズキの用品販売コーナーも設けます。

※1 Compressed Biomethane Gas（圧縮バイオメタンガス）の略

四輪車

〈参考出品車〉お客様の生活に寄り添う”ちょうど良い”軽乗用 BEV 「Vision e-Sky」

- ・日々の通勤や買い物、休日のちょっとした遠出など、軽自動車を「生活の足」として愛用されるお客様の毎日に寄り添う EV として、2026年度内の量産化を目指すコンセプトモデルです。
- ・「ユニーク・スマート・ポジティブ」をテーマとし、前向きで明るい気持ちになれる、スズキらしいデザインを表現しました。



【主要諸元（参考値）】

- ・全長 3,395mm×全幅 1,475mm×全高 1,625mm
- ・航続距離：270km 以上

〈参考出品車〉毎日の“働く”に寄り添う BEV 商用軽バン「e EVERY CONCEPT」

- ・スズキ、ダイハツ工業株式会社、トヨタ自動車株式会社の3社で共同開発している、BEV システムを搭載した商用軽バンの EV モデルです。
- ・軽バンとしての使い勝手の良さはそのままに、EV ならではの静かで力強い走りを実現するだけでなく、非常時にはクルマの電気を外部に供給するなど、地域社会へ貢献できるモデルとしてご提案します。



【主要諸元（参考値）】

- ・全長 3,395mm × 全幅 1,475mm × 全高 1,890mm
- ・航続距離：200km

〈四輪技術展示車〉

お客様の「うれしい未来」のそばに寄り添う環境技術「フロンクス FFV*² コンセプト」

- ・カーボンニュートラル実現に向けたスズキのマルチパスウェイでの取り組みのひとつとして、エタノール燃料を活用した環境技術をご紹介します。
- ・スズキは、お客様それぞれの地域にあったカーボンニュートラル実現の選択肢を広げていくことを目指します。



※2 Flexible Fuel Vehicle（フレックス燃料車）の略

その他：市販車

新型「e ビターラ」、新型「クロスビー」、新型「ジムニー ノマド」、 「スペーシア」を展示予定。

二輪車

〈参考出品車〉遊びゴコロのある BEV ファンバイク「e-VanVan」

- ・EV になってもバイクに乗る楽しさ、操るワクワクを感じたいというお客様の願いを叶えるコンセプトモデルです。
- ・1970 年代より人気を博したスズキのレジャーバイク「VanVan」をモチーフとし、独創的なスタイリングとデジタルテーマのユニークなカラー&グラフィックで先進性を表現しました。
- ・ファンバイクとして EV の新たな楽しみ方をご提案します。



【主要諸元（参考値）】

- ・全長 1,810mm×全幅 825mm×全高 1,050mm
- ・車両区分：原付二種相当

〈市販予定車〉「GSX-8T/ GSX-8TT」

- ・2025 年 7 月に発表した新型ネオレトロモデル「GSX-8T」「GSX-8TT」を日本での市販予定車として初めて展示します。
- ・GSX-8S をベースに、レトロとモダンを融合させたスタイリングデザインと、最新の電子制御を組み合わせ、走りに安心感・楽しさを享受できるミドルクラスモデルです。



GSX-8T



GSX-8TT

【主要諸元（参考値）】

- ・全長 2,115mm×全幅 775mm×全高 1,105mm
- ・エンジン：4 サイクル 775 cm³

〈参考出品車〉ペダル付折り畳み電動バイク「e-PO」

- ・「普段使いからレジャーまで、身近な移動をもっと自由に！」をコンセプトに、電動アシストと EV バイクを掛け合わせた新ジャンルの原付一種相当のモビリティです。
- ・ペダルを漕ぐことで、強力なアシスト走行が可能なことに加え、アクセル操作のみでも快適に走行することができます。
- ・カーボンニュートラル時代でも、環境に配慮しながら身近な移動やお出かけ先での移動を楽しみたいという願いを叶える電動バイクとしてご提案します。



【主要諸元（参考値）】

- ・全長 1,531mm×全幅 550mm×全高 990mm
- ・定格出力：0.25kW(原付一種相当)
- ・航続距離：30km 以上^{※3}

※3 記載の航続距離は開発車両によるフル電動走行時の実測値です。

〈参考出品車〉二輪 BEV 世界戦略車第一弾 BEV スクーター「e-Address」

- ・2025年1月にインドで開催された「Bharat Mobility Global Expo 2025」で発表したモデルを日本で初めて展示します。
- ・十分な航続可能距離と洗練された外観を持つ実用性に優れた原付二種相当のスクーターで、「最新の技術を活用したバイクに乗って、日常生活をよりスマートにしたい」というお客様の願いを叶えるモデルとしてご提案します。



【主要諸元（参考値）】

- ・全長 1,860mm×全幅 715mm×全高 1,140mm
- ・定格出力：0.98kW(原付二種相当)
- ・WMTC 航続距離：80km

〈市販予定車〉（海外仕様モデル）「GSX-R1000R」

- ・2025年8月に鈴鹿8時間耐久ロードレースにおいて発表した「GSX-R1000R」を展示します。
- ・展示ではレース走行時のようなフルバンク状態を体験しながら撮影ができるフォトスポットをご用意いたします。



【主要諸元（参考値）】

- ・全長 2,075mm×全幅 705mm×全高さ 1,145 mm
- ・エンジン：4サイクル 999cm³

〈二輪技術展示車〉「水素エンジンバーグマン」

- ・スズキはカーボンニュートラルの実現に向けたマルチパスウェイでの取り組みのひとつとして水素エンジンの研究開発を行っています。
- ・「バイクの楽しさのひとつである、排気音を楽しみながらも環境に配慮した乗り物に乗りたい」を叶えるモビリティです。
- ・ブースでは、Japan Mobility Show 2023 で参考出品したモデルからの進化がわかるよう、カットモデルを展示します。



〈参考展示〉（海外仕様モデル）「GIXXER SF 250 FFV*4」

- ・インジェクターや燃料ポンプ、エンジン制御等を改良して、バイオエタノール 85%の混合燃料が使用可能なフレックス燃料車（FFV）を開発し、2025年1月にインドで発売しました。
- ・植物を原料とするバイオエタノール燃料を使用することで、従来の化石燃料に比べてCO2削減に貢献しながら、ガソリンの使用も可能として高い利便性を実現しました。



【主要諸元（海外仕様モデル）】

- ・全長 2,010mm×全幅 740mm×全高 1,035mm
- ・エンジン排気量：249 cm³

※4 Flexible Fuel Vehicle（フレックス燃料車）の略

その他：市販車 新型「DR-Z4SM」を展示予定。

電動小型モビリティ

〈参考出品車〉次世代四脚モビリティ「MOQBA（モクバ）2」

- ・Japan Mobility Show 2023で参考出品した「MOQBA」を技術的に進化させた「MOQBA（モクバ）2」として展示します。
- ・四脚のプラットフォームをベースに荷物配送仕様・バイク仕様などお客様の多様な用途に対応できる様々なバリエーションをご用意しました。



〈参考出品車〉電動パーソナルモビリティ「SUZU-RIDE 2」

- ・Japan Mobility Show 2023にて参考出品した「SUZU-RIDE」から進化した「SUZU-RIDE 2」を展示します。
- ・日常、商用、レジャーまで、いつでも楽しく軽快な気分になるスタイリング・使い勝手の良いラゲッジスペース・簡単で扱いやすい操作により、お客様のもっと気軽に移動を楽しみたいという願いを叶える電動小型モビリティとしてご提案します。



〈参考展示〉セニアカー40周年記念展示

- ・セニアカーは、1985年10月の発売から40周年を迎え、常に高齢者の足として生活に密着し、移動の自由を守り続けてきました。
- ・ブースでは、初代セニアカーET11と現行セニアカーET4DBの実機やセニアカーの歴史をご紹介するパネルを展示します。



初代セニアカー*



現行セニアカー

*画像は初代セニアカー(4.5km/hタイプ)ET10型。展示車両と一部仕様が異なります。

船外機

〈参考展示〉 船外機 60 周年記念展示

- ・スズキの船外機は、お客様にとって水上の「楽しむ」と「働く」を支える頼れるパートナーになることを目指し、1965 年 4 月の発売から今年で 60 周年を迎えます。
- ・ブースでは、初代船外機 D55 と現行のフラッグシップモデル DF350A の実機や船外機の歴史をご紹介するパネルを展示します。



D55



DF350A

〈参考展示〉 「スズキクリーンオーシャンプロジェクト」の取り組み

- ・スズキは海洋プラスチックごみに焦点を当てた「スズキクリーンオーシャンプロジェクト」を 2020 年に始動し、これまでマイクロプラスチック回収装置の開発、水辺の清掃活動、船外機や部品の梱包資材からプラスチックを削減する取り組みなどを実施してきました。
- ・ブースではマイクロプラスチック回収装置を搭載した DF140B の実機やスズキクリーンオーシャンプロジェクトで取り組んでいる水辺の環境保護活動をパネルや映像でご紹介します。



〈船外機技術展示〉 「DF60A FFV^{※5} コンセプト」

- ・カーボンニュートラル実現に向けたスズキのマルチパスウェイでの取り組みのひとつとして開発中の、エタノール燃料を活用したコンセプトモデルです。
- ・世界で広がっているアルコール含有燃料に対応し、安心して使用できる船外機をご提案します。



※5 Flexible Fuel Vehicle (フレックス燃料車) の略

事業紹介

電動モビリティベースユニット

〈参考展示〉「MITRA コンセプト」

- ・「MITRA コンセプト」は、多様なロボットの足回りとして活用できることを目指し、開発中の電動ユニットです。この「MITRA コンセプト」にパートナーとなる企業様が自律走行や AI などの技術を組み合わせることで、物流や農業、土木建設など、様々な分野でロボットによる課題解決ができるよう、パートナーとともに目指します。
- ・ブースでは、「MITRA コンセプト」のほか、LOMBY 株式会社の自動配送ロボット「LM-A」や株式会社 HBA の「屋外巡視点検ロボット」、オムロン株式会社の「作物育成モニタリングシステム」を展示します。



CBG^{※6} 事業

〈参考展示〉（海外仕様モデル）「ビクトリス」・〈二輪技術展示車〉「ACCESS」（試験車両）

- ・スズキは、酪農廃棄物の資源化により、インド農村の活性化や各種社会課題解決への貢献と、カーボンニュートラルに向けたマルチパスウェイ実現の両立を図ることができると考え、2022年よりCBG^{※6}事業に取り組んできました。
- ・ブースでは、9月にインドで発表した「ビクトリス」のCNG^{※7}/CBG^{※6}仕様、「ACCESS」をCNG^{※7}/CBG^{※6}仕様とした試験車両やスズキがインドの酪農組合の方々と共同で立ち上げたバイオガスプラントのミニチュア模型などを展示します。



※6 Compressed Biomethane Gas（圧縮バイオメタンガス）の略

※7 Compressed Natural Gas（圧縮天然ガス）の略

〈参考展示〉「Glydways」

- ・「Glydways」は、軽自動車並みの小型電動車両を専用レーンで隊列自動運転させる、オンデマンドの都市交通システムを開発しているスタートアップです。スズキは「Glydways」と協業し、インフラ整備や運用コスト、車両台数を抑えながら必要な時に必要な台数だけ配車することが可能な、効率的で利便性の高い新しい交通システムによって、世界中の都市の交通問題の解決を目指します。
- ・スズキブースでは、「Glydways」で使用する車両「Glydcar」の実車や想定される走行シーンなどをパネル展示します。



*本リリースに掲載されている画像は展示物と一部異なることがあります。

以上